

## 5. 「水産海洋学（漁況海況調査） のありかた」シンポジウム要旨

### (1) 北洋沿岸ブリストル湾の底魚の分布と海洋学的環境（要旨）

（北大水産学部） 小 藤 英 登

ブリストル湾沖の浅い陸棚には春季二つの水温の不連続面が形成される。一つは沖合の暖水の前線であり、一つは冬季海水下で冷却された寒冷水の前線である。暖水前線の温度傾度は冷水前線の温度傾度より大きい。この頃冷水前線以南の海域では一般に魚群密度は大きい、暖水前線の暖水側近傍では特に大きい。五月下旬乃至六月初旬頃暖水前線の温度傾度が緩むと魚群は二つの前線を横切つて北乃至北東の冷水域に移動し、魚群の密度は全般に小さくなる。一方沿岸寄りの50 m以浅の海域は、風による表層の攪乱と潮流による海底摩擦のための攪乱のため表面から海底まで一様な温度で昇温しつゝ、海底の温度は沖合の深部よりも早く昇温し、六月下旬頃には約50 mの等深線に沿つて水温の不連続面が形成される。この頃ここに再び魚群の集合がみられる。

これらの観測的事実から、今後解明を必要とする問題点として次の事項を指摘したい。

1. 水温の不連続面の精測とそのための測器の改良考案
2. 潮流との関連に於て海底附近の水平鉛直方向の海水混合の機構の解明。
3. 温度傾度に対する魚群行動の詳細な調査。